

計画作成年度	平成24年度
計 画 主 体	枝幸町

枝幸町鳥獣被害防止計画

【 連絡先 】

担 当 部 署 名 枝幸町産業振興課農林グループ
所 在 地 枝幸郡枝幸町本町916番地
電 話 番 号 0163(62)1234
F A X 番 号 0163(62)3353
メ ー ル ア ド レ ス akibaryota@town.esashi.hokkaido.jp

1. 対象鳥獣の種類、被害防止計画の期間及び対象地域

対象鳥獣	・ニホンジカ(エゾシカ) ・ヒグマ ・カラス(ハシブト・ハシボソ)	・キツネ ・アライグマ
計画期間	平成25年度～平成27年度	
対象地域	枝幸町全域	

2. 鳥獣による農林水産業等に係る被害の防止に関する基本的な方針

(1)被害の現状<<平成23年度>>

鳥獣の種類	被害の現状		
	品目	被害額	被害数値
ニホンジカ (エゾシカ)	牧草 ロールパックサイレージ 苗木 道路横断による交通事故被害	11,494千円	牧草1,398ha ロールパックサイレージ20個 苗木の食害500本 44件(枝幸警察署調べ)
	ヒグマ	採卵用サケ 市街地出没件数	78千円 5件 27件(目撃情報より)
ハシブト・ハシボソ カラス	配合飼料 ロールパックサイレージ	50千円 80千円	配合飼料 概ね ロールパックサイレージ10個
	キツネ	ロールパックサイレージ	80千円 ロールパックサイレージ10個
アライグマ	配合肥料等(コーン)	算出不可	算出不可
合計		11,782千円	

(2)被害の傾向<<平成23年度>>

ニホンジカ (エゾシカ)	・農業被害 枝幸町全域に分布し、2月の雪解けから11月の降雪時期までの間、牧草地の食害、踏害に農業者は苦しめられている。
	・林業被害 民有林、国有林においては、冬場の樹皮被害や植樹した広葉樹の食害が増加傾向にある。
	・生活環境被害 年間を通じて道路横断等による自動車との衝突、衝突回避による路外転落事故等、人命を失いかねない交通事故が増加している。また、春先の市街地の出没や庭木の被害、個体数が増加傾向にある。

年度	被害面積ha	被害額(概算)千円	被害作物
H19	0.2	20	馬鈴薯
H20	300.3	1,860	牧草・馬鈴薯
H21	306.4	8,272	牧草・馬鈴薯・人工造林地
H22	1165.1	9,330	牧草・馬鈴薯・人工造林地
H23	1398.0	11,494	牧草・人工造林地

※野生鳥獣被害調査報告による。

ヒグマ	<ul style="list-style-type: none"> ・水産被害 ふ化場について、電気牧柵により対策を行ったが、採卵用サケの食害があった。 ・生活環境被害 山間部に生息しているが、生息数は不明であるが4月から11月までの年度ごとの目撃情報を比較すると、増加傾向にあると想定される。 近年市街地周辺にも出没し、ウォーキング等、住民生活の様々な面で人身事故等の重大な事故につながる恐れがある。
カラス (ハシブト・ハシボソ)	<ul style="list-style-type: none"> ・農業被害 枝幸町全域に分布し、農作物や家畜等に対し被害を与えている。 ロールパックサイレージの穴あけ、配合飼料の盗食等、被害も深刻な問題となっている。
キツネ	<ul style="list-style-type: none"> ・農業被害 枝幸町全域に分布し、農作物や家畜等に対し被害を与えている。 ロールパックサイレージに穴を開けるなどの被害もある。 ・生活環境被害 市街地を徘徊する個体もあり、エキノコックス等地域住民に対し精神的苦痛を与えている。
アライグマ	<ul style="list-style-type: none"> ・農業被害 目撃情報によりはこわなによる捕獲を実施しているが、思うように捕獲に至らず、収穫前の畑作物など家庭菜園での食害、牛舎の配合飼料の盗食等、増加傾向にある。 ・生活環境被害 生息域は住宅地にまで及び、生息数は増加しているものと推測される。

(3)被害の軽減目標

指 標	現状値(平成23年度) 被害面積・件数・額	目標値(平成27年度) 被害面積・件数・額
ニホンジカ(エゾシカ)	被害の現状のとおり 11,494 千円	300ha 2,000 千円
ニホンジカ(エゾシカ)交通事故件数	44件	15件
ヒグマ	被害の現状のとおり 78 千円	0 千円
カラス(ハシブト・ハシボソ)	被害の現状のとおり 130 千円	0 千円
キツネ	被害の現状のとおり 80 千円	0 千円
アライグマ	算出不可	0 千円

(4) 従来講じてきた被害防止対策

	従来講じてきた被害防止対策	課 題
捕獲に関する取組	<p>有害鳥獣駆除として地元猟友会と委託契約を結び、有害鳥獣の駆除に努めている。</p> <p><ヒグマ> 目撃情報があった場合、注意看板を設置するとともに、目撃箇所を中心にパトロールを依頼。箱わなによる捕獲にも努めている。また、市街地付近出没时间には、音声告知放送により町民に周知を行っている。</p> <p><アライグマ> 特定外来生物に基づくアライグマ防除実施計画を策定し、箱わなによる捕獲を実施。</p>	<p>猟友会員の高齢化に伴う捕獲の担い手育成が課題となっている。</p> <p><ニホンジカ> 捕獲に伴う牧草地への進入について、農家の理解・協力を得るなど、近隣町村が一体となって捕獲しなければ、減少とはならない。また、自治体にとって大きな問題となっていたのが、一般廃棄物である捕獲された個体の死骸・残滓の最終処分である。これまで原則持ち帰り、緊急避難的に現地埋設を指示してきたが、これらはハンターにとって重労働であったため、捕獲個体の増加を推進する妨げとなっていた。そのため、町として安定した受入できる低コストな処理方法の確立が求められていた。</p> <p><ヒグマ> 夜間に多く出没することや非常に敏感な性質であることから目撃情報に対し実効は上がっていない。</p> <p><キツネ・アライグマ> 目撃情報に伴いはこわなによる捕獲を実施しているが、思うような捕獲には至っておらず、効果的な捕獲が課題となっている。</p>
防護柵等設置に関する取組	<p>対象鳥獣については、町内全域に生息し、広大な牧草地であることから防護柵の設置は、町として特に行っていない。</p> <p>個々にさまざまな対策を行っており、爆音機の設置、ネット等の囲い、電気牧柵の設置等がある。</p>	<p>広大な牧草地に防護柵の設置については、撤去等の維持管理をするにあたって多大な労力が必要であり、農家の負担になってしまう。また、経済的観点からも困難な状況である。</p>

(5) 今後の取組方針

鳥獣被害を減少させるためには、農地、牛舎等への侵入防止策と対象鳥獣そのものの個体数を減少させる捕獲駆除対策が必要となる。

町内関係機関で組織する「枝幸町有害鳥獣対策連絡協議会」において、被害防止に向けて効果的な対策等を検討協議する。

対策の中心的役割を担う捕獲の担い手の育成、確保について推進する。

3. 対象鳥獣の捕獲等に関する事項

(1) 対象鳥獣の捕獲体制

枝幸町有害鳥獣対策連絡協議会において連携を図りながら効果的な対策等について検討するとともに、有害鳥獣からの農業被害、生活環境被害を最小限に留める。
有害鳥獣駆除として地元猟友会への有害鳥獣駆除委託を継続する。

(2) その他捕獲に関する取組

年 度	対象鳥獣	取 組 内 容
25年度	ニホンジカ(エゾシカ) ヒグマ カラス(ハシブト・ハシボソ) キツネ アライグマ	近年、増加していく対象鳥獣について、効率よく捕獲するため猟友会による一斉駆除日を定め捕獲駆除を実施する。また、今まで実施できていなかった罠による捕獲を実施し、増加するニホンジカについて、衝突事故防止のため町民に対する交通安全啓発を行っていく。 加えて、捕獲報償費の増額、死骸・残滓の受入処理施設として枝幸町有害鳥獣等減量化処理施設の供用開始、捕獲個体運搬用車両を試験的に貸与し、積極的な捕獲による個体数の減少を図る。また、地元猟友会の高齢化に伴い、担い手確保のためにも町内住民に鳥獣について知ってもらうよう努める。音声告知やケーブルテレビを利用した周知活動も行っていく。
26年度	ニホンジカ(エゾシカ) ヒグマ カラス(ハシブト・ハシボソ) キツネ アライグマ	効率よく捕獲するため猟友会による一斉駆除日を定め捕獲駆除を実施する。また、ニホンジカの罠による捕獲を引き続き実施し、増加するニホンジカについて、衝突事故防止のため町民に対する交通安全啓発を行っていく。捕獲個体運搬用車両の扱いについても、前年度の結果を踏まえ検討していく。 また、地元猟友会の高齢化に伴い、担い手確保のためにも町内住民に鳥獣について知ってもらうよう音声告知やケーブルテレビを利用した情報提供も継続的に行っていく。
27年度	ニホンジカ(エゾシカ) ヒグマ カラス(ハシブト・ハシボソ) キツネ アライグマ	効率よく捕獲するため猟友会による一斉駆除日を定め捕獲駆除を実施する。また、ニホンジカの罠による捕獲を引き続き実施し、増加するニホンジカについて、衝突事故防止のため町民に対する交通安全啓発を行っていく。捕獲個体運搬用車両の扱いについても、前年度の結果を踏まえ検討していく。 また、地元猟友会の高齢化に伴い、担い手確保のためにも町内住民に鳥獣について知ってもらうよう音声告知やケーブルテレビを利用した情報提供も継続的に行っていく。

(3)対象鳥獣の捕獲計画

捕獲計画数等の設定の考え方				
近年の被害額と近年の捕獲実績のほか農林水産省の基本方針、北海道鳥獣保護計画、特定鳥獣保護管理計画及び地域住民の意見等を踏まえ算出。				
【過去の捕獲頭数】				
	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
エゾシカ	220頭	283頭	341頭	544頭
ヒグマ	1頭	4頭	6頭	6頭
キツネ	2頭	0頭	0頭	5頭
カラス	181羽	62羽	145羽	116頭
アライグマ	9頭	5頭	49頭	39頭

対象鳥獣	捕獲計画数		
	平成25年度	平成26年度	平成27年度
ニホンジカ(エゾシカ)	450頭	450頭	450頭
ヒグマ	4頭	5頭	6頭
キツネ	5頭	5頭	5頭
カラス(ハシブト・ハシボソ)	200羽	220羽	240羽
アライグマ	30頭	35頭	40頭

※有害鳥獣駆除での頭数

捕獲等の取組内容
<p>【ニホンジカ・ヒグマ・キツネ・カラス】</p> <p>捕獲区域 枝幸町全域 鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律施行規則第7条第1項第7号の場所及び区域において、鳥獣駆除等を行われなければ農林水産物等の被害の軽減が図れないと判断される場合は、当該区域を含め、捕獲・駆除等を行う。</p> <p>捕獲手段 主に銃器(ライフル銃・散弾銃)とし、発砲が困難な場合は、はこわな等を使用する。</p> <p>【アライグマ】</p> <p>捕獲区域は町内全域とし、特定外来生物の防除実施計画に基づき、防除従事者がはこわなにより捕獲・駆除し、被害の拡大を防ぐ。</p>

(4)許可権限移譲事項

対象地域	対象鳥獣
該当なし	

4. 防護柵の設置その他の対象鳥獣の捕獲以外の被害防止施策に関する事項

(1) 侵入防止柵の整備計画

対象鳥獣	整備内容
該当なし	

(2) その他被害防止に関する取組

年度	対象鳥獣	取組内容
25年	ニホンジカ(エゾシカ) ヒグマ カラス(ハシブト・ハシボソ) キツネ アライグマ	電気柵の維持、補修など管理の徹底 農家による放牧地の柵管理の徹底 エゾシカ捕獲報償費の見直し、運搬車両の貸与 減量化施設の供用開始 ヒグマ出没、シカの衝突事故等ケーブルテレビによる自主放送による町民周知並びに看板設置による注意啓発活動
26年	ニホンジカ(エゾシカ) ヒグマ カラス(ハシブト・ハシボソ) キツネ アライグマ	電気柵の維持、補修など管理の徹底 農家による放牧地の柵管理の徹底 ヒグマ出没、シカの衝突事故等ケーブルテレビによる自主放送による町民周知並びに看板設置による注意啓発活動
27年	ニホンジカ(エゾシカ) ヒグマ カラス(ハシブト・ハシボソ) キツネ アライグマ	電気柵の維持、補修など管理の徹底 農家による放牧地の柵管理の徹底 ヒグマ出没、シカの衝突事故等ケーブルテレビによる自主放送による町民周知並びに看板設置による注意啓発活動

5. 対象鳥獣による住民の生命、身体又は財産に係る被害が生じ、又は生じるおそれがある場合の対処に関する事項

(1)関係機関等の役割

関係機関等の名称	役割
枝幸町	音声告知等による町民への周知及び看板設置
北海道猟友会南宗谷支部枝幸部会	目撃場所周辺のパトロール
北海道猟友会南宗谷支部歌登部会	目撃場所周辺のパトロール

(2)緊急時の連絡先

枝幸町産業振興課農林グループ 歌登総合支所産業建設グループ

6. 被害防止施策の実施体制に関する事項

(1)被害防止対策協議会に関する事項

被害防止対策協議会の名称	枝幸町有害鳥獣対策連絡協議会
構成機関の名称	役割
枝幸町 (産業振興課農林グループ・歌登総合支所 産業建設グループ・町民課環境生活グループ)	事務局を担当し、協議会に関する連絡調整等 鳥獣被害の実態把握と町民への啓発活動等
宗谷南農業協同組合	農家からの被害情報収集及び提供
南宗谷森林組合	森林所有者からの被害情報収集及び提供
北海道猟友会南宗谷支部枝幸部会	捕獲従事者の統括、捕獲等
北海道猟友会南宗谷支部歌登部会	捕獲従事者の統括、捕獲等

(2)関係機関に関する事項

関係機関の名称	役割
北海道宗谷総合振興局産業振興部農務課	鳥獣被害防止総合対策事業の指導
北海道宗谷総合振興局保健環境部環境生活課	鳥獣被害対策の窓口(捕獲許可等)
宗谷森林管理署枝幸森林事務所	国有林内の被害情報の提供
宗谷森林管理署歌登森林事務所	国有林内の被害情報の提供

(3)鳥獣被害対策実施隊に関する事項

本計画に基づき、枝幸町鳥獣被害防止対策協議会の内部に鳥獣被害対策実施隊を設置する。なお、鳥獣被害対策実施隊及び隊員に関する事項については、平成25年度中に内容を検討し、必要な事務手続き等を行うこととする。
--

(4)その他被害防止施策の実施体制に関する事項

該当なし
